

# 市長と語る～まちづくり懇談会～上矢作

日時：令和元年 8 月 23 日（金）午後 7 時～8 時 40 分

場所：上矢作コミュニティセンター

---

## 地域自治区会長・市議会議員あいさつ

■会長 本日は市長、副市長、企画部長においでいただいた。日頃上矢作町のために尽力いただき感謝している。会場の皆様には仕事の後、ありがとうございます。中学生が参加してくれたのも今回が初めてだ。若い力が芽生え、その元になるということで嬉しく思う。

本日は各種団体の代表者で組織する地域自治区運営協議会の組織を知っていただくこと、また運営協議会がどのような計画でどのような活動をしているかを知っていただき、上矢作町を理解していただく良い機会だ。上矢作町もいろいろな課題を抱えている。その課題に地域自治区としてどのような計画を立て、どのような行動を起こしているか知っていただきたい。市長の話を聴き、皆様の意見を聴き、共通理解を図り、今後の上矢作町に大いに役立つ有意義な懇談会にしたい。

■市議 地域自治区の役員さん、ありがとうございます。市からも市長初めありがとうございます。

上矢作町にはいろいろな課題がある。今日は 2 つを取り上げる。課題解決のために自分たちが何をするかということから始まって、市に助けていただくこと、その辺を話し合い前向きに一つでも課題が解決できるようにしたい。

## 市長から「はたらく」「たべる」「くらす」「まなぶ」の主要事業について

■市長 上矢作町について。人口は平成 17 年の合併当時 2,600 人、右肩下がりです。平成 30 年は 1,857 人。世帯数は 863 世帯から 770 世帯。生まれる子ども。平成 17 年 12 人、平成 27 年から 5 人、5 人、7 人、5 人、今いる子どもも 8 人、4 人、4 人、5 人でちょっと減ってきている。

事業について。市道上矢作 13 号線。平成 28 年度から令和 2 年度までの事業。完成間近で第 3 工区の工事をしている。事業費 1 千億円。

林道暗井沢線改良。平成 28 年度から令和 2 年度。全体事業費 1 億 2 千万円。今年も工事にこれから入る。2 千万程度予定している。

国道 418 号。バイパスの特に橋の手前。今年は上下水道の付け替えをメインでやっている。この先まだ続けられないといけないので岐阜県には十分に要望していく。

福寿苑。今年度はエアコンの改修工事をしている。6月の補正予算で大規模改修の設計を出した。来年度からは大規模改修に入る。ベッド数の増加も予定している。入所者数は定員70人に対して稼働率90%で、かなり一生懸命やっているといえる。

上矢作小中学校のスクールバス購入。マイクロバス2台、ステーションワゴン1台。すでに発注し、12月に納車予定。ハイエースは9月。早くできるように担当も頑張っている。

上矢作の道の駅リニューアル。今年度の一番大きな目玉になる。令和元年度ということですのですでに工事に着手し、10月オープン予定。新たな道の駅ができ、地元の皆様の努力で、新しく運営母体もでき、今着々と準備が進んでいると聞いている。秋以降を楽しみにしたい。岐阜県で駐車場の整備を今予定しているということだし、トイレの改修も何とかやってくれと今要望している。今年度はちょっと間に合わないと言っている。なるべく早くやってくれるように県と調整している。

## 意見交換会

■司会 市長から主要事業の説明をいただいた。夢のある話もあれば、少子化のように今後対策を立てないといけない問題もあった。

2つのテーマのうちの1つ目、鳥獣害対策について。上矢作町での現状や対策、各団体での取り組み、その成果と課題、恵那市への提言や施策への提案を発言してもらう。

### (1) 鳥獣害対策について

■運営協議会委員1 鳥獣害対策については、本郷、広表に大規模なサルの檻を作ったいただき、大変効果が上がっている。ありがとうございます。広表地区ではかねてからイノシシの檻組合があり、地域の21軒がお金を出し合い、イノシシの檻や草刈りなどの環境整備をやってきた。そういうベースがあり、サルの檻についても話があったときに、いち早く手を挙げた。土地の提供も、関係者から話があった。設置をしてから、現在まで数十匹のサルが捕れ、現在は被害がほとんどなくなったという喜びの声を聞いている。ただ、その後、地域の過疎化と高齢化が進み、サルだけでなくシカやほかの有害鳥獣も出てきて、檻を設置するだけでは簡単ではない、維持管理や地域の人の協力がないとこれからもいけない。現在は仲間でそれをやっている。

■下区長 上矢作は中山間地で耕作面積が非常に少ない中、地域の人たちは少ない耕地に野菜などを丹精込めて作っている。貴重な田畑に作ったトマト、ナス、キュウリ、サツマイモなどを収穫時期で実がちょうど熟した頃、生産者より早くサルが群れで現れて根こそぎ取っていく。お百姓さんががっかりするというのがここ数年起きている。10年ほど前には上地区しかサルがいなくて、下地区の人たちは安心していましたが、ここ数年は下地区にも毎年サルが出没し、多いときは20頭ぐらいの群れで、少ないときは1頭で現れて収穫期

の野菜類をきれいに持ち去る。各農家ではその対策として電気柵、防護網、ネットなどを張って防いでいるが、サルも生きるためにそこをうまくかいくぐって拝借していく。振興事務所へはその都度被害届などを提出していたが、生産者は手間もかかるため半ば諦めている。しかし、今年度になって鳥獣害対策として当地域が拾っていただけると聞いて申請したところ、この 9 月に下地区にもサルの檻を設置していただけることになり、地域の人たちからは大変喜んでもらい、また今後の成果に期待している。当地域がただでさえ人口減少で問題を抱えている中、普通に住みやすい地域と思えるまちづくりへの支援を今後ともよろしく願います。小坂市長初め職員の方々、お忙しい中このような地域住民の声を聞く場と機会をいただきありがとうございました。

■司会 下地区にも檻がという話で、広表の檻同様、成果が上がると思う。

■鳥獣害対策協議会委員 この協議会は各区の区長の推薦により各組から 1 人ずつの 10 人と、猟友会の 3 人の 13 人で構成されている。活動は上矢作町の野生動物の被害対策であり、町民からの被害報告を受けて防止を行うことだが、本年の被害報告の提出は、イノシシ、サル、シカで 16 件しかまだ出ていない。実際の被害はまだたくさんあると思うが、報告しても何ともならないという諦めがあり、個人個人で対応している。

平成 25 年頃からサルがたくさん出てきており、平成 27 年に本郷の広表にサルの大型捕獲檻を設置した。地域住民を交えながら、この協議会で見回り、えさの補給、草刈り等、を行い、協議会で 3 チームを作り、1 カ月ごとの交替で管理している。えさの補給に大変苦労しており、今までは休耕田を借りてサツマイモなどを作っていたが、冬の管理が大変で、今年はカボチャを作りもうじき収穫する。冬場は町民からリンゴをたくさん差し入れしてもらい感謝している。

サルも賢いもので、作った当時はすぐ入ったが、だんだん覚えて入らなくなってきた。昨年の懇談会とき、移動檻の設置をお願いしたところ即対応していただき、今年 9 月に移動檻の購入ができる。市の努力に感謝している。

最近クマも出るようになった。町では 7 月に人的災害も起きた。そのときは協議会の皆さんでクマの檻を即現地に設置して、現在も協議会で見守りをしている。

被害はたくさん出ているが、なかなか報告書が上がってこず、対策も苦労している。しかし、町民と一緒にこの協議会がいかにしたら有害駆除できるか検討していきたい。市からの協力を得ながら、一体となって少しでも災害を少なくしていきたいと考えている。

■司会 鳥獣害対策協議会は檻を置くだけでなく見回りやえさの管理など、日頃こまごました手当があつて檻が有効になるということを今の話を聞いて思った。もう一つは、被害届をその都度出すことも大事だと思った。

■運営協議会委員 2 飯田洞の兼定地区で 4 畝の畑で野菜を作っている。山が近いために、サル、イノシシ、シカ、ハクビシンが出る。サルは横道方面から山伝いで行ったり来たり

して、2日から3日おきに出没している。野菜がそろそろ食べられるかと思って畑へ行くと、すでに取りられて、がっかりしている。そんな話を島地区の親戚にすると、島地区では鳥獣害対策が島地区全体でしてあり、サル、イノシシが出ないということを知った。その後、畑を島で作っていいと言ってもらい、数年前からトウモロコシ、スイカ、サツマイモを作らせてもらっている。おかげで今年は子どもや孫が来て野菜をたくさん食べ、みやげまで持ち帰ることができた。飯田洞の兼定の畑でも、鳥獣に取りられないよう、地域みんなで力を合わせて、鳥獣害対策ができたらいと思う。

■司会 被害の生々しい話だ。何種類も獣が出て、それとの闘いという話が、私の小田子でもある。トマトやトウモロコシを今年食われた。そこもそうだと思った。今の話の中に、島地区では地域ぐるみでという話があったので、島地区の方から。

■島地区住民代表 島地区で取り組んだ鳥獣害対策について。私たちの地域もほかの地域と同様にイノシシの大きな被害が毎年あった。対策として各個人でトタン板、メッシュ、電牧などで農地を囲っていたが、あまり効果がなかった。

今から8年前、平成23年度、ワイヤーメッシュがイノシシ対策に効果があるという情報を新聞等で得たので、島地区で耕作している人全員に話したら、島地区を囲ってしまおうという話になった。どういう取り組みをするかということで、ワイヤーメッシュは買って、島生産森林組合の間伐材で細いものがあったので、それを使い、冬に皮むきをして防腐剤をほどこし、400本ほど作成した。それから、ここにはトマトを栽培している人がおり、その使えなくなった古いパイプも活用しようということで、それもいただき、200本ぐらい。それと以前、木ノ実牧場があり、そこで有刺鉄線で囲ってあった古い支柱が、新しい大船牧場でこれ以上使わないから余っているという話を聞いたので、それも300本ほど分けてもらった。合計900本ほど。メッシュを張ったときに1,800mぐらいで地域全体を張り回そうということになった。それらを利用して、共同作業で、耕作者全員で4日間かかり、作業をした。

資金は、耕作者が個人負担で、耕作面積で按分した。それと、市で鳥獣対策の補助金をもらい、合わせて事業をした。

平成23年から現在まで、イノシシの被害が全くなくなった。相当有効だと思う。

■司会 島地区で何日も皆さんが協力して、補助金も工夫しながらやったという話だ。

クマの被害は、今日小笹原で出たそうだが、区長さん。

■小笹原区長・ 人的被害があったのは私の地区で、私の隣の家の女性だ。最近広報でも頻繁にクマが出たという話もあるし、テレビでも北海道では住宅街を日中堂々とクマが歩いているのを見る。恵那市を含め、ほかの市町村でもいいが、対策や効果のあった事例があれば、この場で聞かせていただきたい。

■司会 恵那市全体の鳥獣害対策、また近隣の情報があればお願いします。

■市長 効果があるか分からないが、まちづくり企画部長とこの間、豊田、岡崎の方に行った。ラリーの下見で行った。豊田市は、ほとんどの田んぼがワイヤーメッシュできれいに囲ってあった。すごいと思った。岐阜県内であれだけやったところはないが、愛知県はあれだけやっているの、ああいうのがやってあると逆にこっちへ来ると思った。

■副市長 私の地域でクマが出た。8月に明智ガイシの工場横でクマの被害に、ウォーキングをやっていたときに遭った人がある。腕を骨折し、顔の裂傷で、入院した。昨日も同じ地域でまた出没している。そこは猟友会の明智支部長の地域だが、クマに対する特効薬はなく、出たからとすぐ行っても捕獲できるわけではない。まず自分たちで鈴などをつけて予防してもらうしかない。岩村、阿木でも出た、乗馬クラブクレイン恵那から阿木へ行ってすぐのところ、そこに電牧柵があって、草刈りに女性が行って、クマの食事をしている域内に入ってしまって、被害に遭われた。特効薬はないので、防備していただくしかない。何か対策があれば市としてはやりたいと思う。

■会長 明智ガイシや乗馬クラブクレイン恵那のそばなど近いところでは出るとのことだ。秋になると柿や栗などおいしいものがありクマが出ると思う。

■農政課長 クマではないが、イノシシ、シカについて。上矢作町では、平成27年に固定式のサル檻を1基導入し、平成30年度までの3年半ほどで69頭のサルが捕れたと聞く。一定の効果が上がったと思う。本年度は下地区に移動式のサル檻を1基導入し、引き続きサルの対策を打っていききたい。

一方、イノシシ、シカには、平成29年度に漆原の大馬渡地区で5段の電気柵、2,400mを導入した。小規模な電気柵やワイヤーメッシュは、6団体に述べ5,600mの補助をした。

市内の他地区では、平成30年度、岩村町の富田地区で、ワイヤーメッシュの上に電牧柵を設置した。9,500mで、資材費は国・県の補助を全額もらっている。設置は地元の皆さんで行なっている。もう1カ所は中野方町で、ワイヤーメッシュ柵のみで、7,930m設置した。中野方町は3年で全体、山で囲まれているので地域全体を囲むようにワイヤーメッシュを張る予定だ。本年度は2年目で8,300m設置予定、来年度もワイヤーメッシュを張る。これも資材費は補助金で対応、設置は地元の人で行う。

岩村町、中野方町の人から聞いたところ、一定程度姿は見なくなったとか被害が減ったと言っている。効果が出ていると思う。

補助金は、岩村町や中野方町で取り組んでいるような大規模なものは国・県のものを活用している。もう少し小規模なものは市の単独補助金で、3戸以上の受益者で、3分の1の補助をしている。資材費の3分の1を補助して自己負担が3分の2になるが、中山間地域直接支払い交付金を活用している地域では、そこから3分の2を賄うような対策もできる。これも相談いただければアドバイスする。

有害鳥獣は研修会も行なっている。去年は11月1日に開催している。上矢作町でも多く

の人に参加いただいた。郡上市の和良地区の例を挙げた。そこは集落からイノシシやシカの被害をほとんどなくすことができた。そこを参考にしながら、フェンスの設置や、耕作放棄地を作らない取り組み、イノシシやシカを寄せ付けない方法、わなの設置などの話を講習会で聞き、集落全体の人に参加して取り組むことが重要であるという内容だった。鳥獣被害を防ぐには、ある程度広い地域でまとまって、地域の人全員が協力して取り組むことが有効だと考えている。このため、区や集落といったまとまった地域全体で被害防止の取り組みを進めていきたい。補助制度の説明や勉強会の開催の相談にも乗る。ぜひ地域で話し合いを重ねていただきたい。

■運営協議会委員 3 今日テーマがテーマだけに、今日列席している人は高齢の人が多い。僕は50歳で若造だ。鳥獣害対策の電牧、ワイヤーメッシュの話があったが、僕が住んでいるのは漆原4号組で三作地区だ。素人なので質問しながら話す。

今年の春に、4号組の組長の呼びかけで、山の周りの電牧が乱れているからみんなでちょっとやろうということで、10人ぐらい集まって、西三作、東三作と5人ぐらいに分かれて整備した。半日ぐらいかけて整備した結果、イノシシがちょっと少なくなったという話があった。最初は山ばかりやっていたが山に来られないとなると川から上がって来た。それで川の方の電牧もきれいにした。そうしたら、新しく掘り起こされることもなくなった。これはいいと思っていたら、あれは草が生えるとだめだ。質問したい。市民1さん、大馬渡の電柵5段の効果はどうか。

■市民1 シカ、カモシカには5段あると効果がある。イノシシは下の2段だけで十分だ。

■運営協議会委員 3 確かに川は2段だけだ。下の方にやれば効果があるが、草が生えるとだめだ。シカの被害が三作地区では多くて、シカに関しては、各田んぼの回りに180cmぐらいの柵を自分たちでやって、難をしのいでいる。やってないところは、植えたばかりの稲などは食い散らかされている。

もう一つ興味を持ったことは、ワイヤーメッシュは、共同作業でやったということだが、4日間何人ぐらいでやったのか。

■島地区住民代表 1回20人なので述べ80人だ。丸一日かかる。

■運営協議会委員 3 畑を持ってない人は出なかったのか。

■島地区住民代表 当地区はほとんど全員が持っている。内容的には、島地区の地区外の人もいるので、その人も耕作面積に応じて負担金もいただき、作業にも協力していただいた。

■運営協議会委員 3 僕が住んでいるところは、17世帯で1人暮らしが5世帯、親子2代で生活しているのが7世帯。今年だけでも三作地区では4人が亡くなった。明らかに世代交代の時期に入っている。とてもさみしい思いをしている中で、皆で一緒にやろうといってもなかなか来てくれなかったりする。ワイヤーメッシュをやるのも大変だ。それにして

も、みんなの協力なしでは田畑を守れないという気がすごくしている。

今日、車で愛知県の方から来ると、ちょっと斜めの畑しか作れないところはほとんど荒れ地だ。僕が住んでいるところも、元々畑だったところが今はほとんど何も作っていない草だけの状態だ。農地転用が緩和されるということだが、住宅だけ。僕の場合は、そこを公園にするというのもあると思う。

これから 10 年経つと、平均年齢も 10 歳ぐらい上がるので何とかしないといけない。空き家も増えており、僕が住んでいるところも 2 軒空き家があり崩壊寸前の家が 1 軒ある。そこにネズミやハクビシンやタヌキが棲みつき、悪循環に拍車をかけている。今日来ている人はそれを死活問題として捉えている人ばかりだと思うので、ぜひ声かけし合って、みんな協力する態勢をもっと作っていったらいいと思う。

■司会 島地区のように地域ぐるみでやっていくことの大切さを聞いて、そうやればできるかと思った。できるだけみんなが若いうちに、早目に対策を立てることが大事だと思う。農政課からも、補助金の説明や研修会もあるということで、応援してくれるそうなので、耕作放棄地、空き家の問題もあるが、その対策も鳥獣害対策と関連してくると思う。

## (2) 空き家対策

■司会 廊下にも掲示物があるが、それも含めて発言を。

■運営協議会委員 4 昨年この懇談会で、まちづくり推進員の任期が今年 6 月に途切れるので延長してほしいというお願いをしたら、今年度 3 月まで延ばしていただいた。移住希望者やまちづくりのサポートセンターから情報をいただく窓口になってくれているので助かっている。

恵那くらしサポートセンターからの情報が多いが、都市住宅課が空き家調査をした結果、12 件情報公開してもいいという情報を得て、部会のメンバーで現地調査に行った。中にはいい家もあったが、酷いところは屋根が傷むとこんなに早いのかということのを思い知らされた。雨漏りするとその家は土間から草が生えているとか、日が当たるとか、草が周りに生えると湿気と呼んで床が落ちるとか、空き家に獣が住み糞がいっぱいあるとか。近所の人に聞くと、空き家に誰かが入り込むとか火の始末が心配だという声もある。安心・安全の面でも問題だ。

そういう家を回って改めて思ったのは、数年前までは手入れしていたと。そのとき手を打って管理していれば、こんなことにはならず、再利用が可能だった。放っておいたので手が付けられないということに。町を挙げてやらないといけないとすごく思う。今度はアンケートを町内でもやって、10 年後の状態をシミュレーションしてほしいと考えている。

東海地区で田舎暮らし総合 2 位という魅力があり、来たい人もいるが、物件を提供できない。需要があるが供給できないところが非常に残念だと思う。そういう情報があ

れば、部会や振興事務所に届けてほしい。恵那市もせつかく上限 170 万円の手当を付けているので、さらにこういう取り組みを地域でも進めていきたいのでよろしくをお願いします。

■司会 地域の皆さんも、近所に空き家になっている家があるという情報をぜひ知らせてくれて、少しでも人口減少に歯止めをかけていけたらと思うので、協力してほしい。

まちづくり推進員の活躍について、振興事務所長から。

■振興事務所長 上矢作町には平成 28 年 7 月から今年度末までまちづくり推進員を配置している。恵那くらしビジネスサポートセンターと連携を図りながら空き家の物件調査やバンク登録、移住希望者への案内を行っている。その模様は通路にも貼ってあるので見てほしい。本当に、部会の方たちも一緒に、一生懸命やってくれている。

空き家バンクに登録できない物件も、移住定住部会で一緒に動いていただき、空き家の成約につなげている。まちづくり推進員は上矢作町にとって大切な存在だ。本来ならそのまちづくり推進員が今日お話しするところだが体調を崩しているので代わって状況を説明する。

恵那市の空き家バンクのホームページには上矢作町内でこれまで 5 件の登録物件があった。うち 4 件は買い手がつき、現在移住されている。町内にはまだたくさん空き家があり処分したいと考えている持ち主も多い。が、空き家バンクの登録には土地や建物の登記の名義変更が必要なので、自分が今後手放す土地や家屋にわざわざお金をかけて自分の名義に登録し直そうという判断をなかなかしてもらえないので、バンク登録が思うように進まない。

一方で、移住してくる人は、自然豊かな環境が気に入って、古民家レストランが開きたいとかトマト農家を目指して住む家を探しているとか、今日もトマトがやりたいという子どもをもった若い家族の問い合わせがあったが、そういう人も年に数件ある。が、現在は空き家の数の割に紹介できる物件が少ないので、地域の皆さんの情報提供などを協力いただきたい。

■司会 まだまだ地域には空き家があると思う。賃貸ならとか、空いているからあそこはどうか？みたいな。分かればその連絡先等も教えてもらえると、移住定住部会を中心に頑張りたいので協力してほしい。

■運営協議会委員 5 空き家の問題も鳥獣害の問題も根底には少子化、高齢化に伴う人口減少の問題がある。人口減少に少しでも歯止めをかけたいという気持ちはあるが、私にも 3 人子どもがいる。これ以上の出産は私には難しい。となると、今上矢作町に住んでいる人で子どもを増やすには限界がある。移住定住や、子育て世代の I ターン、U ターンを進めていく必要がある。そこで、恵那市としての施策でどういうものがあるのか教えてほしい。

■移住定住推進室長 地域の空き家の掘り起こしで、私どもの活動に協力を賜りありがとうございます。現在恵那市では、毎年の人口の推移は減少で進んでいる。力を入れている



のは、人口の社会増減で、転入する人と転出する人の差を埋めていこうとしている。大体毎年 1500 人ぐらい恵那市に入ってきて、同じように 1500 人ぐらい外に出ていく。昨年度は-88 人で転出超過だった。その前は約 240 人だった。転出超過に圧縮がかかってきた。その中で特に一番力を入れているのが空き家バンクだ。昨年 1 年の成約実績は 32 件で、過去一番多かった。

空き家改修補助金 100 万円を 10 月から 150 万に引き上げる。登記が難しいということで、売買となるとどうしても所有権の名義を新しく買った人に換える必要があり、かなり古い建物で祖父母の登記名義のものを換えないといけない。なかなか空き家の流通が進まないところがあったので、司法書士にかかる登記の費用を 10 月から最大 10 万円補助する。

他地域の事例。中野方町は、空き家に関するアンケートを採った。10 年後に中野方町で空き家が発生する数が 70 件ほどあった。中野方町ではこれから空き家になろうとするところを拾い上げながら、今あるものだけでなくこれからは拾い上げながら次の準備をし始めている。串原は空き家のリフォーム塾ということで、他地域、特に愛知県中心に来ていただいて、空き家のリフォームの講習会を年に 10 回ほど開催し、他地域の方々を招き入れながら空き家の活用の準備をしていただく取り組みをしている。空き家のリフォーム塾の取り組みは市内の飯地町、山岡町にも波及している。こういうものも有効だと考える。

今後移住定住の取り組みについては地域の皆さんと一緒に取り組んでいきたい。

助成金は、現在 3 種類ある。1 つは、宅地購入の補助金。夫婦の合計年齢が 80 歳未満の若い世代が恵那市に来たときに、新築するための宅地を購入するとき、最大 50 万円の補助金を支給している。同居・近居の補助金は、親の近くに新築でも中古住宅でもいいが建物を購入した場合に、建物の購入費を最大 50 万補助する。市外から新築等で直接転入すると 25 万円の補助金。この 3 つを重ねると最大 125 万円の補助金を支給する。若い人が I ターン、U ターンすると手厚く支給するので、身近な人でそういう人がいたら、制度を周知して招き入れていただきたい。

■運営協議会委員 6 本郷地区に住んでいる。転出が-88 人で、入ってくる人より出ていく人の方が多い。上矢作町でも同じだと思う。私の長男も名古屋に出ている。各家庭の事情はあると思うが、出ていくことを減らす努力もしないといけない。子どもが地元で、親と一緒に住めないにしても近くにいる、呼んだらすぐ飛んでこれるぐらいのところに住んでくれたらいいと思う。皆さん同じようなことを思うと思うが、町の皆さんが関心を持って、大勢で情報を集めたり活動したりが大事だと最近思う。具体的な対策はこれから決めないといけないが。

たとえば僕もこういうところに参加して初めて、上矢作町にはこんな考えの人がいるんだとか、いろいろな経験ができています。そういうことが大事だ。まず関心を持ってもら

うことができたらいいと強く思った。

■司会 みんなで協力してまちづくりを進めていくということだ。

■運営協議会委員 7 毎年この懇談会に参加して、要望や報告をした回答が、毎年必ず成果が上がってきて、今回そういったことを地域の人にも知ってもらったら、そういう人から今回ここに出席してない人にも伝わって、みんなが関心を持つようになったらいいと思う。私も移住定住部会にいる。なかなか空き家バンクへの登録も進んでいなくて何とかならないかと思っている。毎年ある区の総会や組の寄合でも、普段の回覧だけでは伝わりきらないので、空き家バンクの制度などのお願いもしているが、それでも現状ではなかなか思うようにいっていない。

上矢作町のこの部会としても、今年度中に町民にアンケートを行いたい。内容を今検討している。10年後の皆さんの各家庭の、何人住んでいるかとか、隣近所はどうかとか、そういったことを現実的に考えてもらって、10年後隣に誰もいないとか、動物の方が多いか、いろいろな問題が出てくると思う。僕としては10年では遅く5年後ぐらいを考えてやっていかないとまずいと思うが。とりあえず部会としてはアンケートを採ってその上で次の施策をとりたい。近いうちにその報告をしたいと思っている。

■市民 2 鳥獣害のことで。檻を作ってもらって感謝していると皆さん言っているが、これは全く違う。僕は営農組合で上矢作町の田んぼを23町歩ぐらい作っている。今年2町4反ぐらいがシカ被害でやられている。1割だ。今協議会に面積を出してやっている。ここにいる副所長が一生懸命ほうぼうに声をかけてやっている。岩村の富田がやった柵、中野方の柵を去年講習に行って、両方とも1,300万円の資材費だ。労力だけは自分たちでやれということで、去年その申し込みをした。担当者が代わっていろいろあってだめになった。それを今年もやりたいと。先ほど大馬渡が5段の電牧を張ったというのは、飯田洞で全地区やりたいという話があったが、やはり高齢化で労力がないということで大馬渡へ回ったみたいだ。それを振興事務所は分からなかった。

上矢作町というのはバラバラの地区なので、上矢作町全体を囲えと言われるが、そんなことは不可能だ。地区地区で囲いながら何年かのうちに上矢作町を囲いたいと思っている。

今年もシカ被害が営農組合だけじゃなくある。この辺をみんなにお願いしているがいい返事が出ないので苦労している。その辺を何とかやっていただきたい。一応去年見積もりを取ったら約600万円だ。結局だめだということだが。今日も所長に、「まあ諦めよう」と言ったら、所長は「諦めちゃいかん」と。僕は諦めているが、先ほど皆さんは檻がどれくらい良かったと言っているが、イノシシ被害は大分少なくなっているが、シカ被害のことは先ほど全然話に出ていない。上矢作町はシカ被害が一番多い。猟友会の鉄砲を持っている人が営農組合に2人いるが、有害鳥獣の許可は、まだ新米なので下りないということだ。何とか有害鳥獣も早く取ってもらおうと、今いる猟師がイノシシやシカを打てる。その辺を

よく考えていただきたい。

ここにいる人もシカのことを言わない。サルは本当に少なくなっている。今一番被害があるのはシカだ。木ノ実でも車が何台も潰れている。車は直るが稲は直らない。そこをよろしくお願いします。

■司会 営農組合からの生々しい状況と意見だ。諦めないように頑張っていく。恵那市としても協力をお願いします。地域の方々も協力をよろしくお願いします。

最後に会長から意見を。

■会長 合併から15年経った。当時は役場におんぶにだっこだったが、地域で頑張らないといけないという意識が出てきた。

私たちの先輩も頑張ってくれたので、それを引き継いで頑張らないといけないと思っている。65歳まで働く時代になり、ますます地域のボランティア活動が先細りになってきたが、私たち高齢者も頑張らないといけないという意識を持ってほしい。明日婚活パーティーを若い上矢作オールスターズのメンバーで開く。道の駅は改修中にもかかわらず、お盆を中心にものすごい人で、売れ行きも順調だった。10月にはオープンするので期待している。そういう明るい話題を少しでも増やしていける上矢作町にしたい。協力をお願いします。

### 市長お礼のあいさつ

■市長 活発な意見をいただきありがとうございます。今日は鳥獣害被害と空き家、人口減少に対する意見をいただきありがとうございます。昨年にも増して、非常に直面した課題だとしみじみと感じた。特に上矢作や串原、飯地、中野方地域は恵那市でも一番端で、人口減少も厳しく高齢化も進んでいる。常々申し上げるが、そういった場所だからこそ取り組めることがあるはずなので、3割打者、2割打者でもいいので、10やって1か2成功すればいいので、それでもいろいろチャレンジしてほしい。そのために必要なら予算も確保する。実験的な取り組みでもいい。考えてほしい。

いただいた意見、特に鳥獣害も含めて、市でできることがあればこれからも一生懸命取り組む。檻が1つ2つできたから喜んでいるという話ではなく、もっとやることはたくさんあると改めて感じる。そういうところにも手を打っていきたい。

意見をいただいたことは持ち帰り、すぐにできることはすぐに、予算を伴うものは時間をかけて、なるべく早く対応する。

今日言えなかった意見はいつでもいいので、振興事務所でも担当部署でもいいので伝えていただきたい。目先のアイデアを形にしていくことが大事だと思う。

課題を共有して、現状をお互いに認識して共有することが大事だという意見をいただいた。まさにそういうことだと思う。今日話が聞けたことも有意義でありがたかった。引き続きこの機会を持って、私どももかかわらせていただきたい。

## 閉会

■司会 これでは閉会する。市民2さんが言われたシカの被害は廊下に掲示してある。アンケートにも協力してほしい。

[ 閉 会 ]